

新年あけましておめでとうございます。

いよいよ 2007 年、皆様方にとって素晴らしい一年になることをお祈りいたします。

ところで、私にとっての 2007 年は...前厄なんです

しかも、信じたくないけど当たってる六星占術！

私は土星人 - (マケル)なので、今年は停止の大殺界...2009 年にならないと、運気は上がらないんです。とはいえ所詮、占いですからね。本気では信じてませんよ。

と思ってただけど、先日、片桐さん宅に招かれたときに、郡山で手相占いをしている女性の方がいらっしやいまして、ついでに手相をみてもらう事になったんです。

でも、男ってあんまり占いを信じないからね~、どうせ統計学でしょ、みたいな感じで、冷やかな態度でみてもらってたんだけど、いきなり

「うわぁ すごいですね、女性にもてるでしょう？」

っていうんだよ。思わず、すげえ マジ当たってんじゃない！

なーんてね!(^^)! まあそれはお世辞だとして、その後がすごい。

なんと、「3年後くらいに夢が叶いますよ。」だって。

3年後って、2009 年。2009 年って六星占術的にいえば、大殺界抜けて、種子の年。

信じたくないけど当たってる六星占術！ うーむ、おそろべし細木数子！

っていうか、手相の人がすごいのかな？ それとも後厄も終わるから？

いずれにせよ、あの手相占いの方はホント当たってました。

今、この社長通信を書いているのが 1 月 2 日。実は昨日おとといと、東京にいたんです。

まず大晦日は神奈川県鎌倉市の銭洗弁天様にて、五円硬貨を清めてまいりました。

そうです、今回の社長通信と一緒に同封しているストラップにつけてある五円硬貨です。

しかもできる限りみなさんの生まれ年の五円玉で。

できる限りですので、そうでない場合はごめんなさい。

もちろん古い五円硬貨ですので、ピカピカなハズはありません。なのになぜピカピカなのかって？ それは私が一枚一枚丹精込めて磨き上げたからです。(ヒマだなぁ俺って！)

今年の初詣は明治神宮に行って来ました。

いわゆる遠くの神様なんとかで、別に近くの神社で十分なんだけどさぁ、まっ俺だからしょうがない。行きたいと思ったところに必ず行く。同行する家族は大変でしょうけど。

てな感じで、本日は仲人さんここに新年のご挨拶と、明日は会社の新年会、明後日は親方のところで新年会と、毎年の事なんだけど、私の正月は全く家でくつろげないって。

今回もいろいろ“おまけ”を付けたけど、まずDVDビデオですが、これは昨年テレビで放映された“天国からの手紙”です。

オーラの泉で有名な、江原さんの特番です。

基本的にテレビって、“やらせ”なんですよ。でも、この江原さんだけは本物です。

今まで、本当にオーラが見える人はテレビ出演しなかったんです。

というより、メディアでそういう事を言う人がいなかった、というべきでしょうか。

ですから今までオーラが見える人は誰にも言えずに、むしろ自分は異常なんじゃないかと逆に悩んでた人が多かったことと思います。

江原さんのおかげで、オーラという存在が市民権を持ちましたし、スピリチュアルという言葉も広く認知されるようになりました。

では、江原さんがなぜ本物と言い切れるのか？

それは、ご家族にしか知りえない情報を言えるという点です。これはオーラとは関係ありません。亡くなった人と交信できるという、また別の能力です。両方の能力を持つ、そういった意味では江原さんは本当にまれな存在だと思います。

ここまで説明しても、まだ“やらせ”を疑っている人もいるかも知れませんね。

よくビデオを観て頂きたいんですが、出演しているご遺族の方々の中には最初、全く泣くつもりのない方もいらっしゃいます。もちろんそれが普通でしょう。

涙もろい女性は別にして、まず男はテレビカメラがまわってる前で、そう簡単に涙なんかみせないですよ。いくら今ここに亡くなったご本人さんがいるといわれても。

ところが、江原さんの口から出る言葉、言い方、その全てがまさに亡くなった方そのものなので、きつとこらえ切れずに泣いてしまうんでしょう。

もうひとつ最後に、細木数子さんの番組に出演したトミーズ雅さんのお話もいれときました。雅さんの実体験をもとにした素晴らしいお話しです。

“天国からの手紙”に感動された方にぜひ読んでほしい一冊があります。

飯田史彦さんが書いた“生きがいの創造”です。飯田さんは福島大学助教授で江原さんと同じような能力を持った方です。この本を読んだ後に“ツインソウル”を読めば、私の話も江原さんの話も手に取るようによく理解できることと思います。

“生きがいの創造”より一部ちょっとご紹介しましょう。

人生には、因果関係の法則が働いてますから、自分が誰かを傷つけると、いつか必ず同じくらい、自分も誰かから傷つけられます。しかし、逆に自分が誰かを助けてあげると、いつか自分が困った時に、同じくらい不思議に誰かから助けてもらえるのです。したがって人生では、他の人から返してもらいたいと思うような言動だけを、他の人に対して行えば良いのです。とてもシンプルでわかりやすい法則ですよ。ですから『こいつをいじめても仕返しなんかされないから大丈夫だ』なんて思ってしまうと、大変なことになりますよ。

その人ではない誰かから、そのうち必ず同じくらいお返しをされるのです。
そして『こんな人を助けても、何も返してもらえないから仕方ないや』なんて思わないで
どんな人でも助けてあげましょう。その人ではない誰かから、そのうち必ず同じくらい助
けてもらえる時が来るからです。

人生は、因果関係の法則を活用しながら、自分の意思によって創り上げるものであり、あ
なたには、いつでも自分の人生を望ましい方向へと転換するチャンスが開かれています。
たとえ予定通りに厳しい試練に見舞われたとしても、その試練の結果は、自分の言動によ
って変えることができるのです。あなたは変えることのできない一本道の運命を、いやい
や押し付けられているわけではありません。今後の人生のシナリオをあなたの意志と言動に
よって常に選び取りながら生きているのです。

人間は、自分に最適な両親(修行環境)を選んで生まれており、夫婦や家族のような身近な
人々は「ソウルメイト」として、過去や未来の数多くの人生でも、立場を交代しながら身
近で生きる。

いかがです？

やっぱ少しムズカシイかな。これからも私が少しずつわかりやすく説明していきますので、
ご安心を。

では最後に、お正月ということで、神社、いわゆる神様のお話をしたいと思います。

そもそも神様って本当にいるの？っていう人がいます。

あたり前だけど、いるに決まってんじゃない。

でも信じない人って、見たこともないし、会ったこともないしって、屁理屈をいう。

なんのために神社の神殿に鏡があるかご存知ですか？

普通の家庭でも神棚に鏡がありますよね。

あの鏡をのぞくと神様が見えるようになっています。

それをのぞくと、たいがいは自分の顔が映るので、『これは神様じゃない』と言う人がいる
けれど、実はその鏡に映っている人が神様なんです。

それでも、『これは私の顔だ』と言い張る人がいます。

それはなぜかというと、『我』が強いからなんです。

『かがみ』という言葉は、真ん中に『が』が入っています。

自分しか見えない人は、『我』が強いんです。

『我』が強いと『かがみ』のまま自分が映るんだけど、『我』を抜くと『かみ』という言
葉になって、映っている人が『神様』になる。

自分のことしか考えないというのは、どういうことかということ、人間には食欲とか性欲と
いう『欲』があるんだけど、これを原始本能といいます。

むずかしい話をすると、脳は三層構造になっていて、一番下に爬虫類(はちゅうるい)の脳、
次にサルの脳、一番上に人間の脳というふうに重なってるんだけど、人間の脳というのは

ものすごく神に近いんだよ。

爬虫類脳が食欲とか、性欲をつかさどっているんだけど、四六時中ご飯のこと考えていなくても、ちゃんとおなか減るし、トイレにも行くし、基本的なことはあまり考えなくてもいいようにできている。

自分のことばかり考えているのが、『我』がある状態ということなんだよ。

『自分が、自分が』と言って爬虫類脳で生きてると、『我』が強いから、『この人が神なんだよ』と言っても信じられない。

神らしいことはしたことがないし、する気のない人間が神に見えるわけがない。

ところが、そういうこと以外に、自分はどうやったら人の役にたてるだろうか、自分がブスとした顔してたら、人がいやな思いするだろうな、悲しい顔をしていたら心配するだろうなと、自分のことを忘れて、人のことを考えるようになると『我』が抜ける。

愛のある言葉で話すとか、笑顔でいるとか、人のために自分が無理をしないでできることを考えていたら、その人がやっていることは神に近いんだよね。

人様のために働くことは、神様のお手伝いをしていることだから、神様に近づいていく。

人様が喜ぶこと、世の中が喜ぶことをただすればいい。

神様に近いことをしていれば、自分の顔が神になって、あなたの中に神がいるようになる。

御神酒(おみき)というのがあるよね。これは三つの喜び“お三喜(おみき) ”、『うれしき』『たのしき』『ありがたき』ということで、これさえあげてれば、お酒なんてあげなくていいの。

『うれしいね』『ありがたいね』『たのしいね』という御神酒をあげていけば幸せになるし、それを実際にやれば、もうその人は神様なんだよ。

鏡に映るのは、私の顔。これが神様だとすると、いつもキレイにしてなくちゃ。

神に仕える巫女(みこ)さんは、真っ白な着物を着て、朱の袴をはき、手には金の鈴を持っています。今でこそ、みんな華やかな色の服を着るけど、昔の人からみたら、巫女さんはとんでもなく、きらびやかで華やかな存在だったに違いありません。

毎朝、きちんと顔を洗うってことは神様を磨いていることなんだ。服にはピカピカ光るものつけて、華やかにしよう。人の役にたつことを考えて愛のある言葉を話すようにしよう。

『我』を捨てて、笑顔を忘れず、お宮としてちゃんと立ってしよう。

それが私のお役目なんだ。まだまだ修行中の私です。

この社長通信がみなさんの役にたったら、本当に本当に幸せです。 感謝してます。

今年もみなさまにすべての良き事が雪崩のごとく起きます！

平成 19 年 1 月吉日

株式会社 杉原建築設計事務所
代表取締役 杉原 吉朝